



## Vol.13 リサイクルを支える手

が貼られた瓶を眺めると、驚いたことに瓶自体は全く同じでした。母に尋ねると、ビールの瓶は皆同じに作ってあって、どのメーカーでも洗って何度も使えるようにしてあるのだと教えてくれました。きっとこれがリサイクルとの初遭遇です。

「リユース」と言ったほうが正しいですね。繰り返し使うこと、です。次第にほとんどの牛乳はパックに、ビールは缶に変わりました。今度はそれらをリサイクルしています。

多くの人が気がついており、本当は繰り返し使ったほうが合理的です。先人の知恵です。もったいない、無駄にしない。物の寿命を全うすることが、資源の有効活用やひいては自然との共生に一步近づくのではないかと思います。

**資**源としてのリサイクルが当たり前になった昨今です。これからもこの日本で、この地球で生きていこうと思ったら、リサイクル (recycle) に加え、リユース (reuse) やリデュース (reduce) は大切です。

**もったいない、無駄にしない！  
物の寿命を全うさせる**

先日のニュースで、ついに北極の海氷の中にも大量のマイクロプラスチックが蓄積されていることを知りました。便利で手軽と誰もが飛びついた使い捨て生活のツケが、時間差で私たちに猛省を迫り始めました。

**誰かの手によって  
「ごみ」が「資源」に変わる**

仕事での移動は、最近はおつばら新幹線です。車内では、Eco (エコ) 出張をアピールする広告を見かけます。エコであることは、いまや何よりも「売り」になります。

新大阪より西では以前から行われていますが、今回初めて新横浜到着前にスタッフが不要なものを回収に来てくれました。おそろくいままでも来てくれていたのかも。帰路は爆睡していることが多いので、気づかなかつたのかもしれませんが。このサービスは大歓迎。奥の席に座っていると、捨てに出たくても出づらいこともあります。

車内に出るごみの量は少なくない

「リサイクル」という言葉を初めて知ったのはいつのころでしょうか。言葉自体は知らなくても、かなり昔から繰り返し使えるものがあることは知っていました。

たとえば牛乳びん。飲み終わったらさっとすすいで裏口の脇の黄色い配達箱に戻しておくと、それと入れ替わりに新しい牛乳が毎朝届きました。そしてビール瓶。家にはビールが1ケース、定期的に届けられていました。と同時に、空の瓶が回収されていきました。

父の好みは当時、確かキリン。あるとき違う銘柄が混じっていたことがありました。キリン以外のラベル

はずです。この回収サービスで集まった「ごみ」は誰かの手によって分別されて、「資源」になるのでしょうか。移動時も、日常でも、ビニール袋などはなるべくもらわないようにする (リデュース：減らすこと) もの、それでも少なくない量のごみを生みだしながら生きています。

分別は、大変な労力の作業です。見えないところで支える手があるから、安心して移動ができます。

瓶のリユースが減った理由の一つは、配達の手間がかかるからだと言われました。でもまた、軽量化された繰り返し使えるリターナブルびん (returnable bottle) が増えてきています。手間だけを考えたら、分別するのもリユースするのも変わらないのかもしれませんが。



イラスト★ささきさとみ (<http://blog.goo.ne.jp/satomi343>)

分別の大変さのほんの一端ですが、経験したことがあります。

乗務員だったころ、飛行機内でアルミ缶を分けて集める試みが行われていました。これを、アメリカンドリームになぞらえて「アルミ缶ドリーム」と呼んでいました。

当時は、「分別してリサイクル」という発想がまだまだ薄い、本当に草創期の話です。乗務員が専用の黄色いビニール袋にアルミ缶だけを入れる、それだけのことでした。

それだけのことですが、結構大変でした。狭い機内で、しかも航行中に出る空き缶はかなりの数です。また、アルミの中にスチール缶が一つでも入っていると上手にリサイクルできないと聞き、やるならばしっかりやろうと、特に気をつけた記憶があります。

それでも混入させているかもしれないと、機内食の搬入担当者に話したことがありました。

「皆さんは多くのお客様を相手にサービスをしているのだから、そんなこと心配しないでください。僕たちが分けますから、大丈夫です」

お客様を陰で支える仲間がいて、安心は担保されます。

**マンションで開催された  
「ペットボトル展」の背景**

分けるといえば、先日、自宅マンションのエレベーターホールにペットボトルがいくつか「展示」陳列されていました。さては、また守れない人がいたんだなと思って近づくと、やはりダメな捨て方の指摘でした。管理人さんからのダメ出しです。

区とマンションのルールでは、「軽く洗ってラベルを剥がし、フタを取ってつぶしてから所定のところに入れる」ことになっています。ときどきこのルールから激しく逸脱したものと、このように展示されるのです。

どの家が出したのかわからなければ、きちんと分別できないというのは情けない話です。自分の家のこと

なのに。今回はよほど腹に据えかねたのか、啓蒙の意味合いも含めて1週間近く展示が続きました。

ですが、住人は皆、管理人の羽行さんが好きです。信頼しています。朝早くから出勤し、手を抜かないと皆が知っています。台風や雪のときには、泊まりこんで守ってくれる人です。

もともとの管理会社で定年を迎え、でももっと続けてほしいのでお願いして、いまの管理会社に移ってもらい、ずっと勤めてもらっているのです。これからもずっとずっと、羽行さんがいいと思っています。

この人がいるから、このマンションの品質が保たれている。ここにも快適を支える手があります。

★ ★ ★

『おもてなし日和』は今回から2年目に入ります。日々新たに、精進してまいります。

川崎 美紀 (かわさき・みき) オフィスリバー研修講師 <http://www.officeriver.biz>

国際線キャビンアテンダントとして10年乗務、2005年JALアカデミーのインストラクターとなる。同時に個人事務所・オフィスリバーを立ち上げ、2012年独立。2015年日本キャリア開発協会認定キャリアアドバイザー (CDA) の資格を取得。主に企業を対象に、ニーズに応じた研修を提案し提供。近年はビルメンテナンス・警備・ホテル・金融機関など各業界での研修実績を持つ。ビルクリーニングカレッジでは「おもてなしマナー」トレーナー講習を担当している。

